

No. C01	A グループ	年 月 日	令和6年2月25日(日)
---------	--------	-------	--------------

【設問1】 事例記録の中の「相談の概要」【略A】の記載に相当する、相談者がこの面談で相談したいことは何か。事例記録を手掛かりに記述せよ。

育児が落ちてきたことで仕事を始めようと思っている。以前勤務していた会社は仕事がキツくて短絡的に辞めてしまったが、現在は仕事自体が改善されたと聞き羨ましく思い、どうしたら良いか相談。

【設問2】 事例記録の【下線B】について、この事例を担当したキャリアコンサルタントがどのような意図で応答を行ったと考えるかを記述せよ。

相談者が短絡的に会社を辞めてしまったという思いに対して内省を促しながら、考え方や行動の傾向を振り返りを行い、今後の方策を検討していくための意図であると考える。

【設問3】 あなたが考える相談者の問題①とその根拠②について、相談者の言動を通じて、具体的に記述せよ。

- ① 問題 主な問題は2点ある。(1) 先の見通しを立てないままに行動してしまい、自己理解の不足がある。(2) 以前の会社の働き方が改善したことを羨ましく思い自己肯定感が低下している。
- ② その根拠 (1) 「転職したことばかり、これで会社が辞められる」や「今考えると辞めなくても良かったのではないか」という発言。(2) 「勤務時間や仕事自体が改善された」と聞いた。正直それが羨ましいと思った」や「辞めた会社に復職できると思えない」、「働くこと自体に抵抗感がある」という発言。

【設問4】 設問3で答えた内容を踏まえ、今後あなたがこのケースを担当するとしたら、どのような方針でキャリアコンサルティングを進めていくか記述せよ。

引き続き、相談者が仕事を始めようと考えている思いに寄り添いながら、信頼関係の構築に努めていく。その上で、(1) 相談者の傾向や適性を知るために Job tag の利用やマイジョブ・カードでのこれまでの仕事の相対照しを、本人の了解を得たうえで実施し自己理解を促す。(2) 仕事の理解を深めていくよう、ハローワークインターネットサービス等を利用しながら相談者が具体的に仕事理解を深めていき、前向きに就職活動に取り組んでいくよう情報提供をする。以上より、相談者が主体的に仕事を選択していくように支援していく。

注：解答用紙の裏面および行外に記述されたものは採点されません。

No. C01	Bグループ	年 月 日	令和6年2月25日(日)
---------	-------	-------	--------------

【設問1】 事例記録の中の「相談の概要」【略A】の記載に相当する、相談者がこの面談で相談したいことは何か。事例記録を手掛かりに記述せよ。

子供の入園に合わせて仕事を始めようと考えている。以前の同僚の話を聞き、職場の変化に整
き辞めた事を後悔した。将来のことを考えると不安。働くことに抵抗感もありどうしていいかわからない。

【設問2】 事例記録の【下線B】について、この事例を担当したキャリアコンサルタントがど
のような意図で応答を行ったと考えるかを記述せよ。

会社を辞めてしまった後悔と受容し、この経験で将来に対してどのような不安があるのか、何故不
安になるのか、気持ちとその背景にあるものを確認し、内省を促す意図がある。

【設問3】 あなたが考える相談者の問題(①)とその根拠(②)について、相談者の言動を通
じて、具体的に記述せよ。

① 問題 (1)自身の強み適性を理解しておらずこれから何をいのか曖昧で自己理解不足(2)以前の
経験に囚われて次に目が向いていない。情報不足、仕事理解不足。(3)夫との会話が主で、問題。

② その根拠(1)「特にやりたいことがあるわけでもない」先のことを考えているが、かたや「思え」の発言。
(2)「辞めようとしたが、かたははふか」と後悔している。「今更言っても遅いから、働くこと自体に抵抗感
もある」(3)「無理に働かなくてもいい」「かたや行動に移せぬ」「将来のことを考えると不安」の発言。

【設問4】 設問3で答えた内容を踏まえ、今後あなたがこのケースを担当するとしたら、どの
ような方針でキャリアコンサルティングを進めていくか記述せよ。

子供の入園に合わせて仕事を始めたが、なかなか行動に移せない。相談者と密に信頼関係を深
めていく。(1)自己理解を促す為に自身の強みや適性を具体的に書き出し、整理。ジョブカードの
職務経歴シートを作成し、これからのキャリアの確認をする。(2)仕事理解については「働くことの
低抵抗感」と具体的に書き出し、問題を確認していく。その上でjob tagははじめる等と活用
仕事への興味を高めよう。(3)家庭内で子育てと仕事の両立を含めたライフプランの話し合いを提
案する。以上により、子育てと仕事の両立ができて、事で相談者が主体的に選択できるように支援する。

注：解答用紙の裏面および行外に記述されたものは採点されません。

No. C01	Cグループ	年 月 日	令和6年2月25日(日)
---------	-------	-------	--------------

【設問1】 事例記録の中の「相談の概要」【略A】の記載に相当する、相談者がこの面談で相談したいことは何か。事例記録を手掛かりに記述せよ。

以前は会社で働いていたが、育児も大変で仕事を再開はと考えている。しかし元には無理な働きがなければいいという、また関係が苦み生じて働かぬことや、当時の情熱を持って働くかどうかで迷っている。

【設問2】 事例記録の【下線B】について、この事例を担当したキャリアコンサルタントがどのような意図で応答を行ったと考えるかを記述せよ。

相談者の言葉を受容する姿勢を示し、関係性構築を図りつつ、具体的に何が不安かを確認し会社を去るまでは下後いかに気持ちを整理ながら課題を明確にし、今後の支援を見据えるため。

【設問3】 あなたが考える相談者の問題(①)とその根拠(②)について、相談者の言動を通じて、具体的に記述せよ。

① 問題 (1) 現在も仕事をしたいがどのような仕事かで迷っているため仕事理解不足。

(2) 営業の仕事がキツいかなど、今まで営業の仕事しかしてきていないための思い込み。

② その根拠 (1) 「保育園に行くおはなし、仕事を始めようと考えている。この思いがあるが、

これからどんな仕事をすればよいかわからない。 (2) 「営業の仕事にしばらくして先のこと考えていたから」と以前は思っており、今現在も「営業の仕事は好きではなかった」との発言。

【設問4】 設問3で答えた内容を踏まえ、今後あなたがこのケースを担当するとしたら、どのような方針でキャリアコンサルティングを進めていくか記述せよ。

相談者のこれまでの育児が少し落ち着いたことを知り、これからこの頃合いに以下のよう考える。(1) どのような仕事かより、かまたこれまで行ってきたことのキャリアに対して職務の棚卸しを促す。相談者の強みを引き出して活かせるように促す。(2) 営業職しか経験がないように思うため、興味・位置感や相談者としての適職を探してほしい。そのため本人確認の上ジョブを使用し、何がよいのかについていたがきたい。以上のことから今後相談者と一緒に考え、支援をしていかなければならない。

注：解答用紙の裏面および行外に記述されたものは採点されません。

No. C01	D グループ	年 月 日	令和6年2月25日(日)
---------	--------	-------	--------------

【設問1】 事例記録の中の「相談の概要」【略A】の記載に相当する、相談者がこの面談で相談したいことは何か。事例記録を手掛かりに記述せよ。

3年前、結婚・出産を機に営業職として働いていた会社を辞めたが後悔をしている。元同僚と会って会社の働き方も変わったように感じた。働くこと自体に抵抗感もあるしどうしようかわからないと相談に来た。

【設問2】 事例記録の【下線B】について、この事例を担当したキャリアコンサルタントがどのような意図で応答を行ったと考えるかを記述せよ。

Zさんが自身が短絡的に考え仕事を辞めたのではないかと後悔を受け止めつつ、そして、また将来同じことを繰り返してしまわないかという不安を話してもらうように促している。

【設問3】 あなたが考える相談者の問題①とその根拠②について、相談者の言動を通じて、具体的に記述せよ。

① 問題点 問題点は次のように考える。(1) 自分の適性や志向に対する自己理解不足。(2) 元の会社に対する情報収集不足。(3) 自分自身がどうなりたいのか、キャリアプランが不明。

② その根拠 (1) 「特にやりたかったことがあなかった」「営業の仕事は好きでなかったが」「会社のことや商品が好きで入社」のあたりから。(2) 「勤務自体や仕事自体が改善」「辞めた会社で復職できると思えない」のあたりから。(3) 「なかなか行動に移せなかった」「当時の情熱があるか」とのあたりから。

【設問4】 設問3で答えた内容を踏まえ、今後あなたがこのケースを担当するとしたら、どのような方針でキャリアコンサルティングを進めていくか記述せよ。

Zさんがキャリア営業職を担っていたことを聞いて、会社のことや商品のことが好きで入社したことや内定が嬉しかったことなど丁寧に傾聴しうねりを構築したい。自分のキャリアに対して迷っているところからZさんの了承を得て、job tagなどを受けていただき自身がどのような方向の仕事が好きなのか、また向いているのか自己理解を深める。更に元の会社で異動願いを出したとしたら、どの部署だったのか理由も合わせて伺った上で、元の会社で復職制度がないか確認してもらう。そして、働くことに対する抵抗感の理由を考えてもらう。以上のとおり多方面からZさんの今後のキャリアに向けて支援したい。

注：解答用紙の裏面および行外に記述されたものは採点されません。

No. C01	E グループ	年 月 日	令和6年2月25日(日)
---------	--------	-------	--------------

【設問1】 事例記録の中の「相談の概要」【略A】の記載に相当する、相談者がこの面談で相談したいことは何か。事例記録を手掛かりに記述せよ。

3年前結婚し産み、子どもが3歳になり働きにでることを考えている。前の職場はキツくて辞めたが今職場環境が改善したと元同僚が聞きうらやましく思う。今も将来のことを考えると不安であり、働くこと自体に抵抗感があり悩んでいる。

【設問2】 事例記録の【下線B】について、この事例を担当したキャリアコンサルタントがどのような意図で応答を行ったと考えるかを記述せよ。

前職は当時キツく辞めたいと思ってやめたが、他に方法として異動願いや育休をとることでリフレッシュできたり、時短で働くことができたかと後悔している。将来については前の職場のことも含めてなのか内省をうながしている。

【設問3】 あなたが考える相談者の問題①とその根拠②について、相談者の言動を通じて、具体的に記述せよ。

① 問題 次の点がある。(1)仕事にキツくて辞めたが辞めなくて良い方法があったのではないかという仕事理解不足。(2)同僚と話した際、生き生きしていることを羨ましく思う。復職できないが、当時の情熱がまだあるという自己理解不足。

② その根拠(1)仕事にキツくてずっと辞めようと思っていた。今考えると辞めなくて良かったのではと後悔している。辞めずに異動願いを提出したり、育児休暇を利用してリフレッシュできる機会があったのではないかという発言から。(2)同僚と会い、営業部内が改善されたと聞き羨ましく思う反面、当時ほどの情熱や働くこと自体の抵抗感があるという発言から。

【設問4】 設問3で答えた内容を踏まえ、今後あなたがこのケースを担当するとしたら、どのような方針でキャリアコンサルティングを進めていくか記述せよ。

結婚前は営業として働いていたこと、専業主婦として育児に専念したことを思い、より深い関係構築を築く。その上で(1)仕事を辞めたことへの後悔があるため、今現状の職場を理解した上でどうしたいのかも語ってもらう。(2)同僚の生き生きと働いていることに衝撃を受け、辞めた会社に復職できないかもという本人の思いにみかかっている部分もある。就職するときの情熱を思い出してもらい、改善した会社にもどりたのか、又、他の会社で働きたいのか本人の意志確認を行う。また、無理に働かなくてもよいという言葉もあり、なかなか先に進めないでいるので、将来への不安や働くこと自体の抵抗感をとり除き、本人の意志決定を支援していきたいと思う。

注：解答用紙の裏面および行外に記述されたものは採点されません。